


施設名	さいたま市立 大谷場保育園	電話	048-885-8992
住所	埼玉県さいたま市南区南浦和3丁目36-11		


事例 50	タイトル	かぼちゃのランタン作り～種を数えてみよう～	
目指す姿 (大きな目標)	食育活動に保護者にも興味をもってもらい、親子での食の話につなげていく		
当日のねらい (小さな目標)	食材(かぼちゃ)に触れたり、見たりして五感で楽しむ		
方法	対象者 (○で囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児・保護者・その他()	
	実施者 (○で囲む)	幼稚園教諭・保育士・栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和3年10月11日(月)	
	場所	給食室前(かぼちゃクイズ)、ホール(かぼちゃの種を数える、ランタンづくり)	
	資料・教材	大きいオレンジかぼちゃ・万能ナイフ・ボウル・ヨーグルトカップ	
実施内容	<p>調理師の家の畑で採れた大きなかぼちゃを、給食室の前に置いてかぼちゃに関する食育クイズを実施した。クイズの内容は、かぼちゃの重さと種の数当てにして、食育ボード(送迎時に保護者が通る正門の側に設置されている)にクイズを掲示した。親子で考え、答えを書いた用紙を投票箱に入れてもらった。</p> <p>又、年長児にかぼちゃの中身をくりぬき、種を数えてもらった。後日、正解者(重さ・種の数)にはメダルをプレゼントした。中身をくりぬいたかぼちゃは、年長児に顔を書いてもらったあと、保育者が万能ナイフで切り取り、ランタンにしてベランダに飾った。</p>		
結果・参加者の反応や様子	<p>食育クイズでは、20組の親子が参加した。保護者がかぼちゃと子どもを交互に持ち上げ、子どもの体重とかぼちゃの重さを比較したり、兄が弟を抱っこして重さを比べたりしながら、親子で話し合う姿があった。</p> <p>かぼちゃの中身を手でくり抜くと、種が思ったよりも柔らかかったり、綿がふわふわしていたり、感触に驚き楽しむ子もいれば、抵抗を示し嫌がる子もいた。かぼちゃの種を数える方法は年長児がクラスで話し合い、カップに種を5個ずつ入れて数えることにした。種の数が多く、又カップが足りなくなったため、子どもたちからの提案で種を10個ずつ入れることにした。合計453個。子どもたちからは「種がいっぱい入っていた」「楽しかった」等の声が聞かれた。</p> <p>夕方にはかぼちゃのランタンの中にライトを入れて点灯した。送迎時に親子で見ながら、「きれいだね」「おうちで作ってみようか」と話したり、写真を撮ったりしていた。</p>		
評価・今後の課題	<p>重さを考える際、抱っこしてもらったり、親子でコミュニケーションを持つ機会となり楽しい触れ合いの時間になったようだ。</p> <p>かぼちゃのランタンを10月中旬に作ったところ、3日で痛み始めてしまい、ハロウィンまで飾ることは難しかったので、来年はハロウィンの直前に作ることにした。</p> <p>今後も食に興味を持てるようなクイズ等から色々な体験につながるように環境を整え関わっていきたい。</p>	備考	



施設名	さいたま市立辻保育園	電話	048-864-3385
住所	さいたま市南区3-10-15		

事例 51	タイトル	食材に触れて遊ぼう	
目指す姿 (大きな目標)	普段食べている食材に触れ、食への興味を引き出す		
当日のねらい (小さな目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・給食に出る食材に触れ、様々な感覚を刺激する ・食材の違いを知り、ままごと遊びを楽しむ 		
方 法	対象者 (○で囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児・保護者・その他()	
	実施者 (○で囲む)	幼稚園教諭・保育士・栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和3年 10月21日	
	場所	保育室・園庭	
	資料・教材	<ul style="list-style-type: none"> ・食材の皮やヘタ(玉ねぎ、キャベツ、人参、長ネギ等) ・フライパン、皿、ボール、カップ、コップ、お椀、水等 	
実施内容	給食室から野菜の皮やヘタをもらい遊びに使う。 遊びの様子を写真に撮り、掲示した。		
結果・ 参加者の 反応や様子	<p>定期的に野菜の皮やヘタなどを給食室からもらい、遊びに活用した。フライパンや皿も一緒に出したところ、野菜をちぎるだけではなく、フライパンに入れ炒める真似をして、皿に盛り付けたりとままごと遊びがリアルに展開されるようになった。普段野菜が苦手な子も野菜あそびには興味を持ち、両手いっぱい野菜の皮を手にして嬉しそうにする姿がみられた。片付け時、ちぎった野菜が沢山落ちていたが、普段のおもちゃの片付けよりも意欲的に、一生懸命片付けていた。給食時、食材の名前を声に出し、自ら口にしようとする子もいた。</p>		
評価・ 今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・食材遊び当初は間違えて口にする子もいたが、回数を重ねるごとに色や形、臭い、感触の違いに気付き、遊びのバリエーションが広がった。 ・野菜に興味を持つ姿が以前より多くなった。 ・皿やフライパンを用意するとごっこ遊びが盛り上がり、社会性の広がりを感じる事が出来た。 ・今後は似ている食材の違いや、色々な調理法、調理器具にも関心がもてるような取り組みも考えていきたい。 	備考	

施設名	曲本保育園	電話	048-864-3384
住所	さいたま市南区曲本4-5-7		

事例 52	タイトル	「この種で本当に野菜ができるのかな？」	
目指す姿 (大きな目標)	野菜の成長・観察を通して、食材や食への興味・関心を深める。		
当日のねらい (小さな目標)	種に興味を持ち、植えてみる。		
方法	対象者 (○で囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児・保護者・その他()	
	実施者 (○で囲む)	幼稚園教諭・保育士・栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和3年	
	場所	園庭	
	資料・教材	特になし	
実施内容	<p>昨年は掲示により、色々な種類の作物の種を知り、興味・関心を持つことができた。今年には実際に種から育ててみることに挑戦し、どのように大きくなっていくのか観察をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の献立をチェックし、種の出る食材を選ぶ ・給食室で種を取って置いてもらう ・種を植える(5月・・・トマト・宇和ゴールド、6月・・・メロン・さくらんぼ、7月・・・すいか) 		
結果・参加者の反応や様子	<p>・トマトは大きく成長し、実が出来たが赤くならなかった。宇和ゴールドは、芽が出てきたが10cm程で止まってしまい、それ以上は大きくならなかった。さくらんぼは、芽が出なかった。</p> <p>メロン、すいかは小さな芽が出たが、枯れてしまった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食で出た野菜や果物の種を実際に見ることで、こんな小さな種から本当に野菜や果物が出来るのかという疑問を抱きながらも、どんどん大きくなっていく様子を見て驚く姿があった。 ・種を土に植えても、芽が出てこないものがあったり、ある程度までは大きくなって、途中で成長が止まってしまったり、枯れてしまったり、失敗も多くあった。育てるために、他にどんな方法があるのかみんなで考えたり、水耕栽培を試したりした。「大きくならないね」「枯れちゃったね」と残念そうにする姿があり、育っていかないとそこで興味が薄れてしまう姿もあった。 		
評価・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫して食べるということは出来なかったが、いつもならば捨ててしまっていた食物の種を、育て、成長する様子を観察していくことで、驚きや発見を得ることができた。 ・失敗を通して食物を育てることの大変さや難しさを学ぶ良い機会になったと思う。少しでも普段から食べている物に興味を持ち、食べることへの意欲に繋がっていったらと思う。 	備考	

施設名	さいたま市立大谷口保育園	電話	048-887-4989
住所	さいたま市南区大谷口1089-1		

事例 53	タイトル	おおやぐちファーム ～初めてのお米作り～	
目指す姿 (大きな目標)	毎日食べているお米の育ちに親子で興味、関心を持ってもらう		
当日のねらい (小さな目標)	日々生長していく稲の姿を知る		
方法	対象者 (○で囲む)	0歳児 1歳児 2歳児 3歳児 4歳児 5歳児 保護者 その他()	
	実施者 (○で囲む)	幼稚園教諭 保育士 栄養士 調理師 調理員 その他()	
	日時	令和3年5月6日～	
	場所	畑 園庭 ホール掲示板	
	資料・教材	JA バケツで米作り 玄米 土 発泡スチロールの箱 色画用紙	
実施内容	玄米を水に浸して発芽させ、2種類(黒土・畑の土)を用意し発泡スチロールの箱に入れ田んぼを作り、稲を植え付ける。 生長の様子などを“おおやぐちファーム”(掲示板)を通して子どもや保護者に発信していく。		
結果・参加者の反応や様子	<ul style="list-style-type: none"> ・発芽した玄米を初めて見た子どもたちから「もやしのあかちゃん?」「たね?」「なんかつのみたいなのがある」等、新しい発見があった。 ・ボウフラ対策の為“小赤”を入れたので餌をあげ観察し、今まで園庭にはいなかった虫たち(イナゴなど)が集まり興味深く見たりしていた。 ・日々の生長や子どもたちの気づきを“おおやぐちファーム”で発信し、バックナンバーも置いておいたのでも見られ、親子や保育者と一緒に振り返りながら生長を見ている姿があった。 ・野菜の栽培は毎年行っているが、米の栽培は初めてだったので、色々な資料を見ながら育てていく中で、新たな気づきや発見があった。 		
評価・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・正門に近い所で育てることで、登降園時に親子で話す姿があり、楽しんでもらったのではないかと思う。 ・毎日食べているご飯がどのようにして作られ、生長していくのかが目の前で分かり、食育を伝えられるきっかけとなって良かった。 ・田植えから収穫までみんなで見守ってきたことで、食べ物の大切さを改めて知ることができたように感じる。 	備考	

稲の生長記録

5/4 (1日目)



「もやしの赤ちゃん?」「まめ?」

5/7 (4日目)



5/14 (11日目)



小さい緑の芽が出てきました。
「ちっちゃい」「え?お米?」

5/21 (18日目)



5/28 (25日目)



子どもたちと田植えをしました。

6/22 (50日目)



園庭に移動し、皆がいつでも観察できるようにしました。
水の中にヒメダカと小赤を泳がせボウフラ対策。
子どもたちも「おさかなさんいた!」と嬉しそうに覗いていました。

8/30 (119日目)



粃(もみ)の集合体である「穂」が見られるようになりました。

11/19 (200日目)



子どもたちと稲の収穫をしました!
遊びにきていたイナゴを見つけると、
その大きさにびっくりしていました。



粃(もみ)を取った状態の玄米です。 →



施設名	武蔵浦和保育園	電話	048-837-3411
住所	さいたま市南区鹿手袋4丁目1-12		

事例 54	タイトル	触れて、遊んで、食べてみよう ～食材:さつまいも～	
目指す姿 (大きな目標)	食材への興味・関心を広げ、食べる意欲に繋げていく		
当日のねらい (小さな目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・さつまいもに触れて、食材に親しみを持つ ・美味しく、楽しく、食べてみる 		
方法	対象者 (○で囲む)	0歳児・ <u>1歳児</u> ・ <u>2歳児</u> ・ <u>3歳児</u> ・ <u>4歳児</u> ・ <u>5歳児</u> ・保護者・その他()	
	実施者 (○で囲む)	幼稚園教諭・ <u>保育士</u> ・栄養士・ <u>調理師</u> ・ <u>調理員</u> ・その他()	
	日時	令和3年10月28日・29日 11月16日	
	場所	園庭、室内	
	資料・教材	さつまいも、絵の具	
	実施内容	<p>年長児の芋掘り遠足後</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 芋掘り遠足で出た小さなくず芋を砂場に埋めて、芋ほりごっこをする。 ② くず芋を使って、おもいスタンプを行う。 ③ さつまいもが入った給食の「彩の国シチュー」でラッキーにんじんを入れる。 ⇒さつまいもを遊びに取り入れながら、食材に興味をもち食べる喜びに繋げていく。 	
結果・参加者の反応や様子	<ol style="list-style-type: none"> ① 砂場に埋まっていたさつまいもを見つけ、「お芋あったよ!」「たくさん見つけたの。」など嬉しそうに探していた。日中に園庭で行ったが、様々な年齢のクラスの子が砂場にやって来て、スコップなどを手に持ち、さつまいもを掘る様子が見られた。 ② さつまいもの皮に触り、食材の感触を味わいながら、スタンプあそびを行えた。製作に対して少し苦手意識がある子も「たくさんやりたい」となるほど、楽しむ姿が見られた。保育者がスタンプを行う中で星やリボンの模ったスタンプを作ると「このスタンプ押したい」とスタンプラリーのような遊びにも発展していき喜んでいった。 ③ 初めての試みであったため、子どもたちは「星の形の人参入っている～」と大喜びで探していた。「ラッキーにんじん」を探しながらもシチューの中に「みんなが前に掘ったお芋もあるかな?」とさつまいもを見つけ、すくって食べる様子も見られた。①②の活動を通して、さつまいもを身近に感じてもらったのか、その日の「彩の国シチュー」の食べが各クラス良かった。 		
評価・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・さつまいもを使ったそれぞれの活動を通して、子どもたちが楽しむ姿が見られて良かった。 ・調理前の食材を見て、触れたことで興味が広がり、「さつまいも」食べてみようという意欲に繋がっていったと思う。 ・活動から少し期間が空いてからの給食で食べたので、もう少しタイムリーな感じで行うと更に良かったのではないかという意見もあった。 ・給食の「ラッキーにんじん」は各クラス盛り上がっていたので、今後も行っていきたい。 	備考	

～さつまいもを題材とした食育活動の様子～

園庭の砂場で芋掘りごっこ



さつまいもでお芋スタンプ



給食で「ラッキーにんじん」
～彩の国シチュー～



施設名	さいたま市立尾間木保育園	電話	048-873-1103
住所	さいたま市緑区中尾973-2(仮園舎)		

事例 55	タイトル	食べ物を乾燥させたらどうなる？	
目指す姿 (大きな目標)	食材に興味・関心を持つ		
当日のねらい (小さな目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ食べ物を干すのか理由を知る ・干すと食べ物はどのように変化するのか違いを知る 		
方法	対象者 (○で囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児・保護者・その他()	
	実施者 (○で囲む)	幼稚園教諭・保育士・栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和3年11月	
	場所	保育園内	
	資料・教材	<ul style="list-style-type: none"> ・食材(みかん・さつまいも・れんこん・りんご・にんじん・しいたけ・えのき・しめじ・大根) ・天日干しネット ・絵本「干したから…」森枝卓士(写真・絵)・飯田聡彦・株式会社フレーベル館・2016 雑誌「のらのら」一般社団法人農山漁村文化協会・2015 	
実施内容	<ol style="list-style-type: none"> ①給食室で食材を用意する ②干す前の状態を1～5歳児に見せる ③園内2ヶ所にネットに入れて展示、保護者に周知する ④1週間後、4・5歳児を対象に集会を行う(絵本を読んで食べ物を干す理由を伝える。乾いてきた食材を見せて違いを知らせる。新たな食材をネットに入れる) ⑤乾いたらネットから出して当初の写真とともに展示、保護者に周知する(5歳児クラスはみかんをクリスマスリース製作に使う)【予定】 		
結果・参加者の反応や様子	<ul style="list-style-type: none"> ・干してある食材を見て「りんごだ」、「みかん」と答えていた。(未満児クラス) ・「くさっていないね」、「長持ちするんだね」などと話す姿があった。そのときに、保育者が改めてなぜ干すのかを伝えることで子どもたちなりに理解しているようであった。(以上児クラス) ・昨年、乾物戻しをしたこと、それを踏まえて今年は干すとどうなるかということを保護者に知らせると「おもしろい」、「もっと干したらどうなるのか楽しみ」という声があった。 ・集会(4・5歳児)では、4歳児クラスの子どもたちからは「小さいね」などの声があがった。5歳児クラスの子どもたちからは「カラカラだね」、「固くなっているね」などの声があがり、反応の違いがあった。 ・昨年の乾物戻しを覚えている子もいた。「切干大根だよ」と言っていた子もいた。 		
評価・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は乾物を元に戻すことを行った。それを踏まえ、今年度は干すことでどうなるか知らせた。 ・乾物を作ることは時間のかかるものであるということ子どもたちに伝えることができた。 ・身近な食材がどのように作られていくかを知るきっかけになったのではないか。 ・コロナ対策で、集会形式が難しい。 ・よりよい保護者への周知の仕方はどうなものがあるか。 	備考	<ul style="list-style-type: none"> ・写真添付あります



施設名	さいたま市立原山保育園	電話	048(885)7403
住所	さいたま市緑区原山1-7-2		

事例 56	タイトル	みんなでそらまめくんのベッドを見てみよう！	
目指す姿 (大きな目標)	<ul style="list-style-type: none"> 旬の食材や、給食に入っている食材に興味を持つ。 食材の働きを知り、いろいろな食材を食べてみようとする。 		
当日のねらい (小さな目標)	給食に入っている旬の食材を知り、興味を持つ。		
方法	対象者 (○で囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児・保護者・その他()	
	実施者 (○で囲む)	幼稚園教諭・保育士・栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和3年5月28日	
	場所	各歳児の保育室	
	資料・教材	絵本「そらまめくんのベッド」、そら豆、インゲン豆	
	実施内容	給食でそら豆のかき揚げが出たので、子どもたちがより食材に興味を持てるようにと、絵本「そらまめくんのベッド」を用いて2～5歳児向けに活動をした。 食育担当が各クラスで絵本「そらまめくんのベッド」を読み聞かせ、実際にそら豆とインゲン豆の鞘の中身がどのようなになっているかを子どもたちと一緒に見た。その後、鞘を順番に触って、感触を確認した。	
結果・参加者の反応や様子	<p>普段は給食室から給食に使われている食材の端や一部分をもらい、給食前に子どもたちに紹介しているが、子どもたちには食材の全体図をイメージするのが難しく、理解しづらい様子もあった。しかし、そら豆やインゲン豆の実物を用いることで食材のイメージがしやすく、楽しみながら話を聞くことが出来た。子どもたちに馴染みのある「そらまめくんのベッド」という絵本を通して、あまり給食では出ないそら豆を身近に感じている様子があった。実際に食材を見たり、触れてみたりすることで「こんなにふわふわしているんだ！」「インゲン豆のベッドは細長いね。」など子どもたちからは様々な意見が聞かれた。</p> <p>また、実施後に保護者に向けて活動の様子をまとめて掲示した。保護者にも活動の様子を伝えることで会話のきっかけとなったり、家庭でも食材に興味を持つ子どもの姿も聞かれたりした。</p>		
評価・今後の課題	今回は、2～5歳に対する活動であったが、2歳児には理解しづらい所もあったため、今後は未満児も楽しめるように改善したい。また、旬のそら豆という食材を扱ったことで、家庭でも食材に興味を持つ子どもの姿があった。活動の掲示も工夫しながら親子で楽しめるようにしていきたい。これからも園での給食を楽しみ、いろいろな食材を食べてみようと思えるように子どもの目線に立ちながら食育の活動を進めていきたい。	備考	保護者向けに食育の活動を紹介した資料を添付。

今回は園で行っている子どもたちに向けての“食育活動”を紹介します。

原山保育園では、3・4・5歳を中心に給食に入っている食材について、興味を持って楽しく食事を行って欲しいという思いからこのような取り組みを行っています。

そらまめに触ってみました（5月）

絵本「そらまめくんのベッド」に出てくるベッドを実際に触ってみました。見たり触ったり、匂いを嗅いでみたりしてよく観察する子どもたち。インゲンも一緒に見てその違いも見比べて楽しみました。



小松菜はどっちかな？（6月）

野菜の写真を見せてどっちが小松菜かみんなで考えました。写真をよく見比べて、葉の形の違いや根元の色の違いに気づく子どもたち。ほうれん草と小松菜を見分けられるようになりました。スーパーに行った時にお子さんにきいてみてください。



きのこ（9月）・野菜（10月）シルエットクイズ

9・10月ではそれぞれ旬の野菜を取り上げ、シルエットクイズをしました。9月は各クラスで、10月は保護者の方にも一緒に参加していただけるようにゆり組前に掲示しました。ご覧いただけただけでしょうか？9月では、たくさんの種類のきのこたちに驚く子どもたち。10月の掲示では野菜たちに紛れているジャックオーランタンに気づき、かわいいねという声も多く聞かれて好評でした！



今後もいろんな食べ物や食文化について触れていきたいと思います。活動についてはスマイル通信でお知らせしていくのでぜひご覧ください！

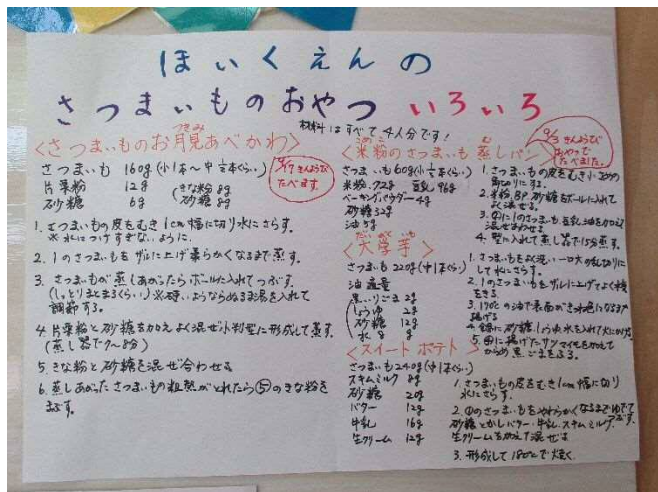
施設名	三室保育園	電話	873-7877
住所	さいたま市緑区三室1629-6		

事例 57	タイトル	みんな大好きさつまいも	
目指す姿 (大きな目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・さつまいもについて知る ・親子で食育に参加する 		
当日のねらい (小さな目標)	自分たちで収穫したさつまいもをどのように調理して食べたのか伝え合う		
方法	対象者 (○で囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児・保護者・その他()	
	実施者 (○で囲む)	幼稚園教諭・保育士・栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和3年10・11月	
	場所	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所前 ・4、5歳児室 	
	資料・教材	さつまいもの形に切った色画用紙、模造紙、給食・おやつのはさつまいもを使ったレシピ	
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・さつまいもの育つ過程を絵に描いて伝え、保育園で提供しているさつまいもの献立レシピ4種類も合わせて全園児が見られるよう提示する。 ・4、5歳児でさつまいも掘りに行き、さつまいもを収穫。全家庭に掘ったさつまいもを配布。 ・4、5歳児クラス全家庭にさつまいも型の画用紙を配布し、持ち帰ったさつまいもをどのようにして食べたかを記入してもらい、クラスに掲示してある模造紙に親子で貼ってもらう。 		
結果・参加者の反応や様子	<ul style="list-style-type: none"> ・さつまいもの旬に合わせ、さつまいもの育つ過程の掲示をだしたことで、4、5歳児はさつまいもに興味をもち、さつまいも掘りにすることができた。 ・さつまいもの献立レシピもさつまいも掘りが終わってからも掲示しておいたことで、家庭で作る際の参考になったようだった。 ・4、5歳児の全家庭に「どのように食べたか」を記入する用紙を配布したことで、参加率も高かった。保護者と一緒に記入し、持参した用紙を模造紙に貼る際にも「どこに貼る?」「ここが良いな。」などの相談をしながら貼っている様子もうかがえた。 ・貼ってある用紙を見ながら「これ、美味しそうだね。」「今度、〇〇作ってね。」「じゃあ今度、一緒に作ろうか。」などの声も聞かれた。 		
評価・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・“さつまいもの育つ過程、収穫、食べる“の一連を掲示なども活用しながら知らせたことで、わかりやすかったようだ。 ・実際に作り、食べた物をみんなで共有するよい機会になり、親子の会話のきっかけにもつながっていった。 ・保護者からレシピを覚えてもらい紹介する予定である。親子で食べること、料理をすることに親しむ機会につなげていきたい。 	備考	

みんな大好きさつまいも



さつまいもは朝顔の仲間



給食・おやつのさつまいもを使ったレシピ紹介



持ち帰ったさつまいもで作ったさつまいもの料理

施設名	さいたま市立西町保育園	電話	048-756-4632
住所	さいたま市岩槻区西町 3-1-24		

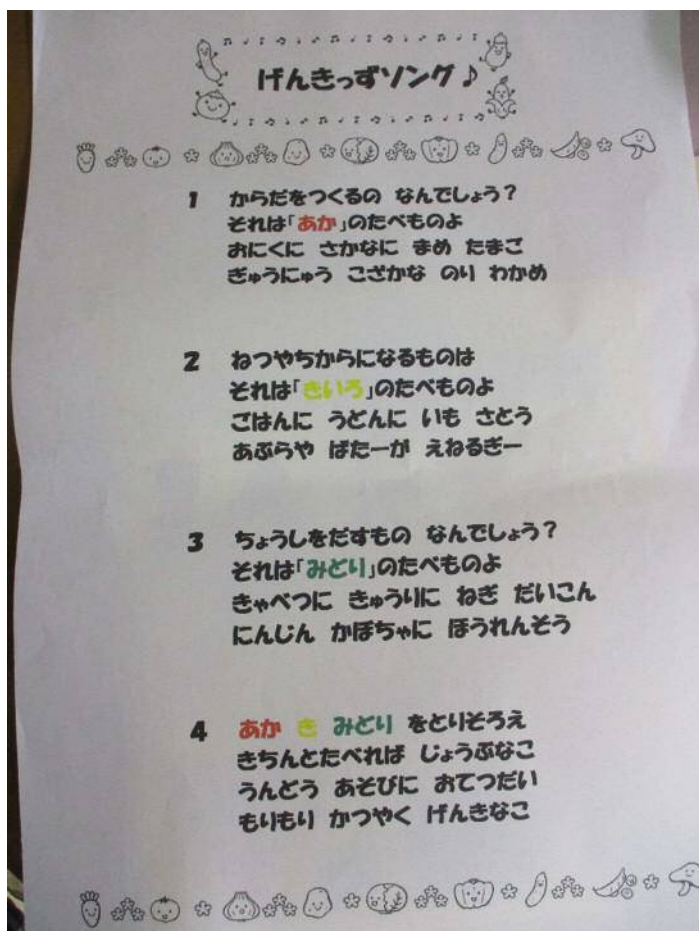
事例 58	タイトル	赤・黄・緑のげんきッズで元気もりもり！	
目指す姿 (大きな目標)	食べ物と健康の関係を知り、何でもすすんで食べようとする。		
当日のねらい (小さな目標)	パネルシアターを見て、楽しみながら三大栄養素(赤・黄・緑)があることを知る。		
方法	対象者 (○で囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児・保護者・その他()	
	実施者 (○で囲む)	幼稚園教諭・保育士・栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和3年11月18日(木)～	
	場所	ホール	
	資料・教材	・パネルシアター ・CD ・歌詞カード ※参考書籍「げんきをつくる食育えほん1 たべるのだいすき！-みんなげんき-」	
実施内容	・パネルシアターで食べ物の栄養素についての話をしたり、歌を歌ったりする。 ・各クラスに歌詞カードを掲示して曲をかけたり、パネルシアターを遊びの中で子ども達が自由に楽しんだりできるようにする。		
結果・参加者の反応や様子	・直後の給食では、パネルシアターについて各クラスの担任から話題にだしてもらったことで、「これは何色のげんきッズかな・・・」と考える姿があった。「卵は(黄身が)黄色だから黄色のげんきッズの仲間！」と初めは食材の色で三大栄養素の赤・黄・緑に分けている子もいたが、野菜は緑に分類されることを知ると、「人参はオレンジだけど、緑のげんきッズだね！」と気づくことができていた。 ・歌詞カードを部屋に掲示したり、パネルシアターを子どもたちが自由に使って遊べるようにしたりしたことで自然と歌を覚え、それぞれの食材の分類について知ることができていた。 ・集会後にも、乳児各クラスでゆっくりパネルシアターを見せることで、食材の名前について知るきっかけになっていた。		
評価・今後の課題	取り組みを通して、食材の栄養素について子どもたちが興味をもつきっかけにすることができた。今後も、給食を食べる際に食材紹介を行ったり、どの栄養素に分類されるかを子どもたちと考える機会をつくったりしていきたいと思う。また、パネルシアターや歌も引き続き各クラスで楽しんでいき、その様子を写真などで掲示して保護者にも発信していきたいと思う。	備考	

赤・黄・緑を仲良く食べて
元気もりもり！




みんなの元気って
どこからくるのかな？

お肉は赤のげんきッズで、
野菜は緑のげんきッズ・・・

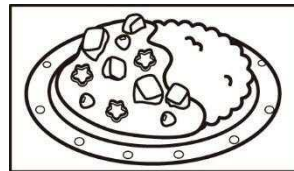


げんきッズソング
権兵衛さんの赤ちゃんの替え歌です♪

施設名	さいたま市立岩槻本町保育園	電話	048 - 756 - 7565
住所	さいたま市岩槻本町 2 - 5 - 5		

事例 59	タイトル	みんなの育てたかぼちゃで夏野菜カレーを作ろう！	
目指す姿 (大きな目標)	栽培から収穫、調理へと食するまでの過程を体験する		
当日のねらい (小さな目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に食材に触れ、調理する過程での食材の変化を見る ・栽培を通して、長い時間をかけて食材が育つことを感じ食する 		
方法	対象者 (○で囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・(5歳児)・(保護者)・その他()	
	実施者 (○で囲む)	幼稚園教諭・(保育士)・栄養士・(調理師)・調理員・その他()	
	日時	令和3年7月27日(火)	
	場所	ホール	
	資料・教材	<ul style="list-style-type: none"> ・かぼちゃ 他 夏野菜 ・調理器具 	
実施内容	<p>5月中旬、園のわくわくガーデンにかぼちゃの苗を植え、5歳児が世話をしていく。</p> <p>ライブキッチン前日に、4、5歳児でペアを組み野菜収穫ツアーを行う。そこで収穫したかぼちゃやトマトを使って翌日のライブキッチンがスタート。5歳児13名が参加して人参、にんにく、トマト、玉ねぎの皮むき。かぼちゃの種取り等を分担して行う。野菜の準備が出来、調理師がルー作りからカレーを完成させていく。</p> <p>その後、かぼちゃは全部で7個収穫。5歳児の人数分カットして、レシピと共に家庭へ届ける。</p>		
結果・参加者の反応や様子	<ul style="list-style-type: none"> ・かぼちゃを育てる上で雌花と雄花を受粉させることなども知り、かぼちゃの実が少しずつ大きくなる様子は5歳児だけではなく、園全体で保護者も含めての楽しみとなった。 ・前日の収穫ツアーではわくわくガーデンで育てているトマト、かぼちゃ、オクラ、枝豆、ナス、きゅうりなどを4、5歳のペアで収穫し、収穫カードに野菜シールを貼っていきながらより興味を深めることができた。 ・当日のライブキッチンでは野菜に実際に触れることでトマトの皮がこんなに簡単に剥けるなどの驚きや発見があった。その日の給食の夏野菜カレーは、子ども達がいつも以上に味わって食べる様子が見られた。 ・掲示や園だよりの裏面を使って保護者にも子どもたちの取り組み、つぶやきを発信した。 ・かぼちゃが家庭に届くと、早速翌日にかぼちゃケーキを作ったと写真を嬉しそうに見せに来てくれた親子の姿も見られた。 		
評価・今後の課題	<p>かぼちゃを栽培していく中で、たくさんの学びがあった。途中で大きくならない実を見て心を痛める事もあったが、その分大きく成長したかぼちゃを収穫した時の喜びは格別だった。</p> <p>5歳児クラスではかぼちゃのうたを作ってしまうくらいにかぼちゃが身近な野菜となった。</p> <p>収穫ツアー・ライブキッチンを経て、家庭にも最後は繋げることができ、長期間での食育活動ではあったが、1つの実を結んだように感じた。</p>	備考	

【岩槻本町保育園 夏の食育だより】



暑い夏が始まりました。

子どもたちの食欲も減少傾向が見られるこの頃です。

そんな中、変わらずに人気のあるのはカレーライス!

7月に2回給食で登場した『夏野菜カレー』の取り組みをご紹介します。

7月26日 【野菜収穫ツアー】

すみれ組・ひまわり組でペアを作り、園内の野菜収穫へ。



どんな野菜がある?かぼちゃの実はいくつある?ペアの友だちと話ながら実際にトマトやオクラをすみれ組に収穫してもらいました。お野菜カードも作成してみましたよ。

7月27日 【ライブキッチン】

昨日収穫した野菜を使って美味しいものを作ろう!と始まったライブキッチン。

子どもたちは夏野菜カレーを作ることは知らされていません。



ひまわり組がエプロン姿で登場します。

野菜の玉ねぎ・にんにく・トマト・人参の皮をむいたり、いんげんを切ったり

かぼちゃの種をかきだしたり。とみんなで協力して野菜の下準備。

その野菜を給食室の平川さんが煮込んでくれました。そのあとバターに小麦粉・カレー粉が入りルー作りが始まると、ホール中にカレーのスパイスの香りが漂います。

「あっ、カレーつくっているんだね!」と友だちと話す子どもたちのうれしそうな顔。



出来上がったカレーが盛り付けされ、自分の近くまでくると

「はやくたべたいな」と。時計の針はまだ10時を回った所でした。

最後にひまわり組オリジナルの『かぼちゃのチャチャチャ』を歌い、会は終わりました。その日の給食で夏野菜カレーをモリモリ食べたのは言うまでもありません。

夏野菜の働きの掲示も出ていますので、ぜひご覧下さい。

施設名	諏訪保育園	電話	794-1620
住所	さいたま市岩槻区諏訪2-5-1		

事例 60	タイトル	野菜の苗・おなか(断面)クイズ	
目指す姿 (大きな目標)	食事・食材へ興味を持ち、関心を高める		
当日のねらい (小さな目標)	野菜栽培で知った野菜の葉や、断面から何の野菜かを当てることで野菜に興味を持つ		
方法	対象者 (○で囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・ <u>3歳児</u> ・ <u>4歳児</u> ・ <u>5歳児</u> ・保護者・その他()	
	実施者 (○で囲む)	幼稚園教諭・ <u>保育士</u> ・栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和3年11月24日(水)	
	場所	ホール	
	資料・教材	・野菜の断面図 ・野菜の苗の写真・パネルシアター	
実施内容	・野菜の断面を見て何の野菜か当てるクイズ ・野菜の苗の写真を見て何の野菜か当てるクイズ ・パネルシアター「ごめんやさい」を見る		
結果・参加者の反応や様子	<p>園庭で育てていた野菜の断面やと野菜の苗を見て何の野菜かを当てるというクイズを行った。写真やイラストを見てのクイズは身近でよく見えていたものだったからか、分かりやすかったようで、3歳児も積極的に手をあげて答えていた。</p> <p>4・5歳児は自分たちが育てた野菜の苗をよくわかっている子が多かった。4・5歳児にとっては食育集会も今年度3回目ということで、回を重ねるごとに食事や食材について関心が深まってきていると感じた。</p> <p>クイズ形式にしたので参加しやすく、正解が発表されると大喜びするなど楽しんで参加出来た。</p>		
評価・今後の課題	<p>・食育集会後も野菜の苗の写真やイラストでクイズごっこをして繰り返し楽しめている。今後も引き続き遊びながら楽しく食への関心を高められるような取り組みを行っていきたい。</p> <p>・給食の時にもクイズに出た野菜についての話題を取り上げ、食材への興味が持てるようにしていきたい。</p>	備考	

食育集会の様子



白黒の断面図を見せて「何かな？」



つぎにカラーのイラストを見せて「わかるかな？」



畑の野菜のはっぱを見せて「何かな？」



施設名	さいたま市立美幸保育園	電話	048-757-8450
住所	さいたま市岩槻区美幸町 3-18		

事例 61	タイトル	いろいろな野菜について知ろう	
目指す姿 (大きな目標)	野菜の栽培や収穫物を食べる中で食への興味を持つ。		
当日のねらい (小さな目標)	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの野菜の育て方や生育過程の違いに自分たちで気づき様々な新しい発見をする。 自分たちで育てた野菜を収穫して食べて、食べ物の大切さを知る。 		
方法	対象者 (○で囲む)	0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・ <u>5歳児</u> ・保護者・その他()	
	実施者 (○で囲む)	幼稚園教諭・ <u>保育士</u> ・栄養士・調理師・調理員・その他()	
	日時	令和3年5月～10月	
	場所	保育園 園庭	
	資料・教材		
実施内容	<p>子どもたちの知っている野菜挙げていき、その中から育てる野菜を子どもと決める。今回はピーマン、パプリカ、キュウリ、かぼちゃ、イエローポップコーンの5種類を育てた。苗だけでなく、種から育てる野菜にも挑戦し、水やり当番を決めてクラスみんなで育て収穫する。うまく実らなかった野菜は切ってみて中を観察し、どんな色なのか、種はいくつ入っているのかなど数えたりし、その野菜のことを知る。</p>		
結果・参加者の反応や様子	<ul style="list-style-type: none"> 苗から育てる野菜だけではなく種から育てる野菜も作った事で成長過程の違いに気付いたり、毎日水やりをする中で「芽がでたよ。」「花が咲いてる」と言ったり、パプリカでは、「緑から黄色に色がかった。」と野菜が育っていく様子を喜びあう姿があった。 きゅうりは種から育てたが1回目は芽がでず、2回目に植えた時には花が咲いたが実がならなかった。この経験から育てることの難しさに気付いた。 途中ピーマンやかぼちゃでは大きくなる前に落ちてしまった実を切ってみて匂いを嗅いだり、「種何個あるのかな?」と1粒ずつ数えたりし、収穫する前にも野菜に触れ合う経験をした。 イエローポップコーンは収穫後室内にて乾燥させているため、今後給食室と連携し、ポップコーンを作り食べる予定である。 収穫した野菜は給食室と連携し、調理してもらい食べた。普段は野菜が苦手で残してしまう子も「一口食べてみる。」と挑戦して食べてみようとする姿があった。 		
評価・今後の課題	<p>苗だけではなく、種から育てた野菜もあり、芽が出る所から観察することができた。また、5種類の野菜を育てたことでそれぞれの葉っぱや花、生長の仕方の違いにも気付くことが出来たり、うまく行かず芽がでない野菜もあったが育てる難しさも実感する事ができたのではないかと思う。種植え～収穫まで写真に撮り、保護者にも発信をするようにした。</p>	備考	